



2月森林レンジャー勉強会報告

当日は吹雪模様の悪天候でしたが、27名もの参加を得て、4班に分かれてリアルな人形を相手に手取り足取りの実技を指導され、部屋の温度ばかりでなく、本物の汗をかきながら、真剣な講習でした。参加者全員にハードカードの「普通救命講習修了証」が発行されました。森の仕事で万一の場合、回りの仲間達が「救命救急の心得」があることはとても心強いことです。予告しました救急箱についての勉強は、後日あらためて計画します。

森林総合研究所の研究発表盛会

3月5日、今年から当会が森林施業を支援する森林総合研究所北海道支所の研究発表会が開催されました。CO₂の吸収に果たす森林のメカニズムとその定量測定方法についてがメインテーマでした。CO₂と森林の関係に関心の高さを示すように、共済ホールが聴衆でほぼ満員でした。当会メンバーの顔が11人確認されました。

3月定例幹事会報告

3月11日、定例幹事会は期末決算期につき、以下の項目を審議いたしました。

- ① 平成14年度事業報告(案)および平成15年度事業計画についての確認と承認
- ② 森林作業心得と作業基準の制定についての検討
- ③ 林作業スケジュールの確認
- ④ NPO法人登録についての確認
- ⑤ チェンソーと刈払機の安全講習受講を(酒井和彦、千葉到、山崎重吉)3氏に受講していただく
- ⑥ のぼり旗作成の承認

当別町「学校林」整備支援について

3月12日 両代表幹事および事務局長の3人で当別町を訪問。通称「伊達山(11.8ha)」の学校林としての位置付けについて町側の協力を依頼。町長をはじめ教育長および商工会事務局長の前向きな取組みの約束をいただきました。対象学校は弁華別中学校、前山の町有林(1.8ha)の提供の意思も表明されました。山主の石島しのぶ氏は当別町のシンボルを「フクロウ」にすることに多大な貢献をし、当別町を「伊達山」一帯を「哲学の村」、その森を「フクロウの森」と称して、独特な自然愛好・保護の理念のもとに地域振興に情熱をもって取り組んでおられます。わが協会のマークもフクロウ。なお、「伊達山」で本物のエゾフクロウが確認されているそうです。縁と交流を深めてゆきましょう。